

羅針盤

第30号

平成23年10月28日(金) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

新設された〔共通事項〕と図工・美術の授業づくり

新学習指導要領の改訂により、小学校図画工作、中学校美術において領域や項目などに共通する資質や能力が整理され、〔共通事項〕として示されました。今回はこの新設された〔共通事項〕の視点を活かした図画工作、美術の授業づくりについて考えてみます。

小学校 第1・2学年の ア 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること
〔共通事項〕 イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと

小学校低学年の〔共通事項〕は、上記のような内容で、発達の特性に合わせて「ア」「イ」の内容が中学年、高学年、中学校ごとに示されています。〔共通事項〕は、児童生徒の活動を具体的にとらえ、図画工作、美術の基礎的な能力を育て、造形活動や鑑賞活動を豊かにするために設けられました。〔共通事項〕の共通とは、「A表現」と「B鑑賞」の2領域及びその項目、事項の全てに共通するという意味であり、同時に関心・意欲・態度、発想や構想、創造的な技能及び鑑賞などの能力に共通して働くという意味でもあります。また、小学校図画工作、中学校美術科において一貫して指導していくという意味もあります。

〔共通事項〕は指導の工夫や改善の視点

これまでの図画工作、美術の授業は、ややもすると「生き生きと」「活発に」「楽しく」といった児童生徒の学習活動全体の雰囲気や先行し、形や色や材料、イメージなどにしっかり向き合えていないといった反省がありました。また、どんな題材にするかを考えることはあっても、その題材で身に付けさせたい資質や能力について具体的に理解し、指導することが十分に行われていないという状況もみられました。そこで、表現や鑑賞の各題材について、そのねらい、児童生徒の学習活動、指導方法などを〔共通事項〕の視点で見直すとともに、児童生徒の具体的な活動を考えながら指導を工夫し改善することが求められています。例えば、自分たちの作品を相互に鑑賞する時間では、表面的に作品を見るだけでなく、形や色、材料の特徴、心に思い浮かべたイメージなどの視点を意識して見させたり、これらの視点をワークシートに示してから書く活動を取り入れたり、視点ごとに色を変えた付箋を作品に貼ることで表現のよさや面白さを伝え合ったりするなど、〔共通事項〕の視点を入れることでさらに見方を深めることができます。

また、〔共通事項〕との関連を学習指導案の題材観に記述したり、ねらいの中で形や色、イメージなどとの関連部分をゴシック体で強調したりするなどの工夫も必要でしょう。

〔共通事項〕を評価に活かすとは

一つの題材の評価規準を考える際に、形や色、イメージなど〔共通事項〕の視点から児童生徒の学習内容を明らかにし、ねらいが達成された状況を具体的に設定していくことが大切です。例えば、「工夫して表すことができる」としていった評価規準を、「児童が自分で選んだ色の組合せを考えながら表すことができる」といったように、〔共通事項〕の視点から具体的な活動へと見直してみるとよいでしょう。

透明カップとオレンジ色の不織布の組合せがきれい！
 (共通事項アをとらえた児童の姿)

さらに、教師の指導や評価で〔共通事項〕の文言が使われるとよいでしょう。例えば、「とてもよく描けているね」「よく工夫されてるね」「どんな作品にしたいの?」と言っていたところを、形や色、イメージなどに着目し、「ぎざぎざした線が迫力があってすごく強そうになったね」「青色と黄色の組合せがとても鮮やかで目を引くよ」「『優しい感じにしたい』というイメージを表すには、どんな工夫が必要かな」のように具体的な姿をとらえて指導や評価をしていきましょう。

(担当・教科教育部 川西 隆)



豪華な感じにするために金色に光るモールを貼ったよ！
 (共通事項イを考える児童の姿)